

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：林業振興費

事業名：水源林等公有林化推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 治山課 水源林保全係

電話番号：058-272-1111(内 3168)

E-mail：c11519@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,714千円(前年度予算額：4,514千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財産 収入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,514	0	0	0	0	0	4,514	0	0
要求額	3,714	0	0	0	0	0	3,714	0	0
決定額	3,714	0	0	0	0	0	3,714	0	0

2 要求内容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

水源のかん養や生物多様性の保全等の公益的機能が広範囲に及ぶ重要な森林のうち、荒廃もしくはそのおそれのある森林で、取得目的が不明な取引等により早急に公的な管理を行う必要がある森林について、地域住民の安全で快適な生活環境を保全するため公有林化を進める。

(2) 事業内容

- ・水源林公有林等取得費

将来にわたり保全・管理する必要がある水源林について、その土地及び立木を取得する。県が水源林を公有林化し、適切に保全・管理することで、地域住民の安全で快適な生活環境を保全する。

(3) 県負担・補助率の考え方

清流の国ぎふ森林・環境基金事業

(4) 類似事業の有無 無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	57	業務旅費
需用費	10	事務用品代等
役務費	747	不動産鑑定費、郵送代等
公有財産購入費	2,900	用地費、立木費等
合計	3,714	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・長期構想

IV 美しい自然と環境を守る「清流の国」づくり

1 森・川・海をつなぐ清流とふるさとの自然を守る

- ・森林がもつ水源かん養機能など多面的な機能を維持・増進し、健全で豊かな森林をつくる取組を進め、岐阜県の自然と水源を守る。

- ・第三期 岐阜県森林づくり基本計画

1 健全で豊かな森林づくりの推進

(2) 森林の適正な保全

- ・岐阜県水源地域保全条例第9条に基づく、水源地域の保全に関する基本方針

(2) 後年度の財政負担

水源林の保全・管理に係る経費が継続的に発生

(3) 事業主体及びその妥当性

岐阜県水源地域保全条例で指定された水源地域のうち特に適切に保全・管理が必要な水源林について県が公有林化をする。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業
 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか。

外国資本等の森林買収に対するセーフティネットとして、平成33年度までに15haの森林取得に対応できる予算措置としている。

水源地域のうち特に適切に保全・管理する必要のある水源林について県が公有林化することで、地域住民の安全で快適な生活環境を守ることを目的とする。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (H28年度末)	目標 (R2年度末)	目標 (R3年度末)
① 水源林の公有林化面積	0ha	12ha	15ha

年度	H29 (実績)	H30 (実績)	R元 (実績)	R2 (予算)	R3 (要求)
実績・予算額	0	0	0	4,514	3,714
指標①目標	3ha	3ha	3ha	3ha	3ha
指標①実績	0ha	0ha	0ha	(推計値) 0ha	-
指標①達成率	0%	0%	0%	(推計値) 0%	-

セーフティネットとしての予算措置であり、目標達成率は参考数値である。

（前年度の成果）

・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果

水源地域のうち特に適切に保全・管理する必要のある水源林について、県が公有林化をすることで、地域住民の安全で快適な生活環境を守ることを目的とする。

前年度は、保全・管理に急を要する水源林はなかった。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い、△：必要性が低い	
(評価) ○	県が水源林を公有林化し、適切に森林を管理することで、地域住民の安全で快適な生活環境を守るセーフティネットとしての役割を果たすことから必要性は高い。
・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおり又はそれ以上の効果が得られている、△：まだ期待どおりの成果が得られていない	
(評価) ○	地域の実情について把握している市町村からの要望に基づき県が水源林の公有林化を進めており、しくみとして事業効果が発揮されている。
・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている、△：向上の余地がある	
(評価) ○	随時、市町村からの要望を把握し、必要性を判断しながら効率的に水源林の公有林化を進める。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 取得事例後検討する。

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 市町村からの要望を把握し、必要性を判断しながら公有林化を進めていく。
